



スポーツ振興くじ助成事業

平成 25 年度 北海道ブロッククラブネットワークアクション 2013

開催報告

日 時： [1 日目] 平成 25 年 11 月 23 日（土） 13：00～17：00

[2 日目] 平成 25 年 11 月 24 日（日） 09：00～12：00

会 場： 北海道立総合体育センター（北海きたえーる）

内 容：

[1 日目]

■開会行事

■講演「継続するクラブを目指して ～人材育成と財源確保を考える～」

■ショートパネルディスカッション「アフターtoto を含めた財源確保」

■グループディスカッション「アフターtoto を含めた財源確保」

■スポーツ振興くじ助成金について、まとめ

[2 日目]

■ドイツ研修報告「ドイツに見る人づくり」

■ショートパネルディスカッション「次世代の人材を育てる」

■グループディスカッション「次世代の担い手をどう育てる」

■まとめ、閉会行事

【概要】

- ・ クラブネットワークアクションの内容は実行委員会で決めましたが、総合型地域スポーツクラブ北海道ネットの役員の意見も参考にしました。
- ・ 全体テーマを『継続するクラブを目指して／人材育成と財源確保を考える』としたのは、平成 24 年度まで開催したクラブミーティングの成果や課題を踏まえ、成熟したクラブも、そうでないクラブも現実的な課題は「ヒトとカネ」に収れんすると判断したからであります。
- ・ 初日は「財源確保」すなわち「カネ」、二日目は「人材育成」すなわち「ヒト」にテーマを絞りました。
- ・ 約 150 人の参加者は、講演やパネルディスカッションを通じて各テーマへの理解を深め、議論を通じて自らのクラブを見つめなおしていました。
- ・ クラブの自立は、クラブ自らが考えなければなりません。北海道ブロッククラブネットワークアクションは、他クラブの現状を垣間見ながら、自クラブの立ち位置を再認識する切っ掛けになったものと思われます。
- ・ また同ネットワークアクションは北海道内のクラブの交流機会としても意義深いものでした。

【討議内容】

[1 日目]

【講演について】

NPO 法人クラブパレット（石川県）のゼネラルマネージャーである榎敏弘さんが『継続するクラブを目指して ～人材育成と財源確保を考える～』をテーマに講演しました。プロモーションビデオで自クラブを紹介しながら、人材育成は「多様な人とつながることが大切」、財源確保は「柔軟に」などと持論を展開しました。



うまくいっているクラブと、そうでないクラブを比較し「成長のヒントを求めて積極的に情報を集めているクラブはうまくいっているが、情報を閉ざしているクラブはうまくいっていない」とし、「うまくいっているクラブは課題をエネルギーにしている」と強調しました。

人材育成について「出入り自由な雰囲気的大事」とし、自クラブの在り方を検証するスポーツを考える会を立ち上げた時「第三者を入れてうまくいった」と事例を紹介。

財源確保については「使命」「責任」などドラッカーのマネジメント理論を引き合いに「NPO は行政も企業もやらないことをやる。信頼されるプロダクトで儲けよ」などと熱く語りました。講演中一貫して「理念の大切さ」を強調。うなずきながら聴き入る人が多くいました。

【ショートパネルディスカッションについて】

『アフターtoto を含めた財源確保』をテーマにしたショートパネルディスカッションは、3 人のパネラーを迎え、SC 全国ネットワークの伊端をコーディネーターに開催しました。

各パネラーは所属クラブ紹介のあと、財源確保に関する課題と、それを解決するための方策について次のように語りました。



鈴木ゆかりさん（NPO 法人よりづか☆ちよいスポ倶楽部）は「市が計画している学校跡地活用事業に指定管理者として名乗りを上げ、そこから自立を目指す」。

浅野謙司さん（びほろスポーツクラブ Beet）は「NPO 法人の取得、指定管理の受託を目指す、そのためにはクラブ改革が不可欠。行政に評価される活動をしていきたい」。

柳谷明彦さん（NPO 法人旭川スポーツクラブ）は「子育てママと知的障害者のスポーツ教室をそれぞれ新企画として仕掛けた。魅力あるメニューを切っ掛けに財源を確保したい」。

【グループディスカッションについて】

ショートパネルディスカッション同様『アフターtoto を含めた財源確保』をテーマしました。過去のクラブミーティングの反省を踏まえ「小グループで具体的に話せる場」として設定。5～6人規模の26グループで話し合いました。

クラブアドバイザーの久保田智さんを進行役に進めました。こうした場は人の話を聞くチャンスでもあり、現実的なテーマがあれば横道にそれてもよいとしました。少人数のため、どのグループも活発な意見交換が行われていました。

「アフターtoto で頭を抱えている」「会費収入を増やしたいが現実には厳しい」「財源に見合った身の丈に合った活動をしていく」などの意見が出されていました。



[2日目]

【ドイツ研修報告について】

NPO 法人おにスポ（北海道登別市）のクラブマネージャーである磯田大治さんが、ドイツ研修報告として『ドイツに見る人づくり』をテーマに、パワーポイントを使い講演しました。

ドイツではクラブ運営においてボランティアは不可欠だが、少子高齢化や個人主義化で担い手は不足しているとし、「ドイツには人材育成のための研修会の費用はクラブに還元される仕組みがある」などと説明しました。



【ショートパネルディスカッションについて】

SC 全国ネットワーク代表委員の小田新紀さんをコーディネーターに『次世代の人材を育てる』をテーマに意見を交換しました。

日本体育協会中央企画班が作った「総合型地域スポーツクラブの自立・自律に向けたチェックリスト」を活用。スタッフの育成や確保について、参加者から意見を求め、その内容に基づき話の内容を深めました。

チェックシートで「すでに実施している」と回答したクラブは少なく、スタッフなどとの理念の共有があまり進んでいない実態が浮き彫りになりました。NPO 法人クラブパレットの榎敏弘さんは「『育てる』のではなく『育つ』。見守ることが大切」などとアドバイスしていました。

【グループディスカッションについて】

1日目同様、5～6人の小グループで『人材育成を考える』をテーマに議論を深めました。グループ替えをしたことで、話が盛り上がったグループもありました。

「スタッフが忙しすぎて人を育てるところでない」「幅広い年齢層をスタッフに取り入れることでニーズが把握でき運営に役立つ」などの意見がありました。

「クラブの中身に差があり過ぎ、意識も違い、参考にならなかった」という率直な意見もありましたが、全体的には「じっくり話し合えた」「結論を出さない、まとめない議論が良かった」と、今回の手法への賛意が多く寄せられました。

【まとめ】

北海道ブロックのテーマは「理想論でなく現実論」であり、ストレートな意見交換に戸惑ったクラブもあったようですが「継続するクラブ」すなわち「自立」への認識は深まりました。

榎さん（前掲）の講演は多くの共感を呼び、講師選定の重要性を再認識しました。少人数のグループワークは好評でしたが会場が狭く「話が聞きづらい」の声があり反省点としました。内容を詰め込み過ぎた感があり、今後の課題といたします。



北海道ブロッククラブネットワークアクション 2013

実行委員長 伊端 隆康